

東京ベイ浦安市川医療センター

病院名・診療科名・研修プログラム名

東京ベイ・浦安市川医療センター 内科後期研修プログラム

住所・ホームページアドレス・連絡先メールアドレス

住所：千葉県浦安市当代島3-4-3 2

病院ホームページ：<http://www.tokyobay-mc.jp/>

見学や研修希望： 研修センター事務担当 へお問い合わせください

メールアドレス：tokyobay-kenshu-jimu@jadecom.info



指導医名・記載者名

部長：平岡栄治（ひらおか えいじ）

プログラムディレクター：山田徹（やまだ とおる）

記載者：江原 淳（えはら じゅん）

研修プログラムの目標としている医師像

米国内科研修修了レベルの国際標準の内科の知識とスキルを身につけ、日本の地域医療現場でも第一線で機能できる医師

スタッフ人数

常勤スタッフ11名（総合内科、集中治療科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓内分泌内科含む）

フェロー総合内科 5名 循環器内科 2名 消化器内科 2名 集中治療科 4名

レジデント人数

27名 男性24名 女性3名

当直

月5回程度（土日2回、平日3回/月）

当直明けの帰宅 可 できるだけ正午頃

診療科独自の病床数

120～150床

- 総合内科、消化器、腎臓内分泌、呼吸器、循環器など内科系病床の合計
- このすべてを内科チームが担当する。

勉強会やカンファレンスの開催曜日・時間とその概要

・ | 毎朝：各科ショートレクチャー&モーニングレポート

曜日ごとのショートレクチャーがあります。

その後前日の新入院患者の症例提示とディスカッションを行います

・ 毎朝：循環器カンファレンス

循環器の新入院症例を中心にGIMと循環器チーム合同で症例のディスカッションを行います。

・ 火曜：臨床倫理/M&Mカンファレンス

倫理カンファレンス

終末期医療や難しい臨床判断、予後予測や緩和医療などを実際のケースをもとにディスカッションします

M&M (Mortality and motility) カンファレンス

転機不良の症例をもとに、原因究明、安全のためのシステム改善や知識の共有につなげます。

上記のカンファレンスを週変わりで行っています

・ 水曜：消化器カンファレンス

消化器チームと合同で、症例をもとに消化器疾患のトピックを勉強します。

- ・ 老年医学勉強会（第3週木曜のみ）

米国老年医学専門医である台東病院 玉井先生をお招きして月1回レクチャーを開催しています。

- ・ 木曜：感染症カンファレンス

隔週でテーマを決めて症例提示とレクチャーを行っています

- ・ Journal Club

臨床の現場からでた疑問からEvidenceを検索し、論文の批判的吟味を行い実臨床へ適用するトレーニングを行います

- ・ 金曜：患者支援カンファレンス

意思決定困難症例の意思決定、退院支援などについて多職種でディスカッションを行います。

- ・ その他

内科外科合同カンファレンス、救急内科合同カンファレンスなどがあります。レジデントが集まり、日頃の問題点などを話し合うレジデントミーティングを月1回開催しています。

- ・ Visiting doctor

月1回程度、緩和ケアや臨床研究、感染症など様々なジャンルのVisiting doctorのレクチャーを行っています。





具体的な研修内容紹介

- ・ 専門科と連携しつつ全内科入院患者を”総合内科”で病棟管理を行うHospitalist形式を採用
- ・ 内科はチーム制、屋根瓦方式の教育体制で全ジャンルの内科疾患を幅広く担当します
- ・ 年間8500台の救急車を受け入れる救急部門があり、内科は1日平均約12名の新入院、平均在院日数10日弱で多彩な急性期症例を経験できます（2015年度は年間約4500例の入院症例がありました）
- ・ 総合内科コースと救急総合内科コースの2つのコースがあります。それぞれのローテイトは以下のようになっています。

総合内科コース ローテイト例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	総合内科			各科研修(指定)			総合内科			連携施設(選択)		
2年目	ICU			総合内科						連携施設(選択)		
3年目	専門研修(選択)			連携施設(選択)			総合内科					

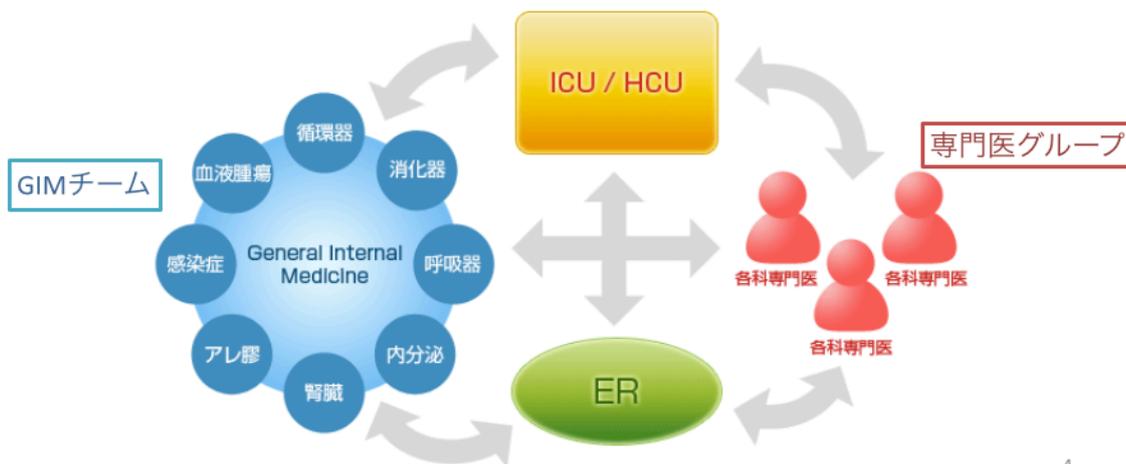
救急総合内科コース ローテイト例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	総合内科			各科研修(選択)			連携施設(伊東市民病院・県立志摩病院)					
2年目	各科研修(選択)			総合内科			連携施設(伊東市民病院・県立志摩病院)					
3年目	専門研修(選択)			総合内科			連携施設(伊東市民病院・県立志摩病院)					

- ・米国のガイドラインなどを参考に、幅広い内科疾患に対し標準的な内科診療を行えるようトレーニングします
- ・症例提示、カンファレンスを通じてCommonな主訴からの鑑別診断の立て方、臨床推論を学びます
- ・整った教育体制のもと非常に多くの症例に暴露できるプログラムです。
- ・教えられるだけでなく、教える能力も訓練します。
- ・地域での研修などを通じて内科医師として独立して診療するskillも磨いていきます。
- ・臨床研究

臨床研究の国際学会、国内学会発表、論文執筆の指導も行っています。

- ・総合内科医、Hospitalistを志す方、将来は専門内科にすすみたいが後期研修でより深く内科全般を勉強したい方、家庭医療や開業を目指したいが内科研修の土台を作りたい方いずれも歓迎します。



4

研修終了後の主な進路

- ・東京ベイのフェローシッププログラム（総合内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、集中治療）
- ・他施設での専門分野のトレーニング（これまでの卒業生では、腫瘍内科、循環器内科、総合内科、膠原病科、産婦人科、集中治療などに進んだ例があります）、
- ・地域医療振興協会の他施設スタッフ
- ・臨床留学(米国内科レジデントなど)など

